

令和元年度事業報告書

はじめに

乳用牛の飼養頭数は16年ぶりに増えた前年に続き増加し、全国の生乳生産量も回復して4年ぶりの増産となりました。しかし、都府県の回復は遅れ、酪農家戸数の減少も引き続き深刻な状況が続きました。地球温暖化の進行に伴う豪雨や猛暑など異常気象の増加による被害が大きかったことに加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響も生じました。TPP11、日EU・EPA、日米貿易協定が発効された新たな国際環境の下で、酪農の生産基盤の強化、特に都府県の家族経営酪農の体質強化・経営安定対策とともに乳製品の品質向上、ブランド化など国産乳製品の競争力強化、輸出促進等のための幅広い施策が進められました。このような中で酪農乳業に携わる方々の様々なご要望にきめ細かくお応えできるよう、令和元年3月5日開催の第19回理事会で承認された事業計画に沿って、事業を実施しました。

前身である試験室の発足以来世紀を超える歴史を持つ乳・乳製品にこだわった試験検査機関として、引き継がれ培われてきた技術やノウハウ等を最大限に活かしつつ、新たな分野も含めてさらに研鑽を積んで、信頼の確保に努めました。

これからの環境の変化を視野に、業務の合理化・効率化、新たな業務への着手、試験検査・研修の実施環境の整備・改良、実態に合わせた組織体制の見直し・強化、サービスの向上等を進め、引き続き、酪農乳業界みなさまの試験検査機関としての役割を果たせるよう、体質強化に努めました。

各事業の進捗状況等は、以下のとおりです。

〔公益目的事業〕

1 法令に基づく検査・認定

(1) 食品衛生法に基づく試験検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、輸入乳製品の食品衛生関連法令に基づく試験検査を実施しました。

- ・輸入乳製品の自主検査(脱脂粉乳、バター、ホエイパウダー等)

111検体 (30年度 111検体、29年度 166検体、28年度 122検体)

(2) HACCP支援法に関する認定

「食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法(HACCP支援法)」に基づく指定認定機関として、乳業者が長期低利融資を受ける要件となる高度化計画及び高度化基盤計画の認定、情報提供、相談受付等を実施し、乳業者及び6次産業化に取り組む酪農家のHACCP導入を支援しました。

食品衛生法に基づくHACCPの制度化が決定されたことに伴い、乳業団体が進める手引書作成の準備作業にも参画しました。

- ・高度化基盤計画の認定：1件（28年度～30年度 0件）
- ・相談対応：HACCPの考え方、取り組み方等に関する質問等多数

（3）指定乳製品等検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、畜産物の価格安定等に関する法律施行規則等に基づき、輸入乳製品の品質検査を実施しました。可能な限り合理的かつ効率的にサンプリング、検査の計画を立て、依頼者の要請に的確に応えられるよう努めました。

種 類	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
バター	3,517 検体	2,691 検体	1,581 検体	1,226 検体
脱脂粉乳	938	1,934	2,724	1,006
ホエイ及び調製ホエイ	375	587	771	325
デイリースプレッド	-	8	32	44
バターオイル	37	38	37	27
加糖練乳	-	-	-	58
計	4,867	5,258	5,145	2,686

2 依頼による試験・調査

（1）依頼による食品等の理化学的、微生物学的試験

食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC17025認定試験所として、依頼者のご要望に的確にお応えできるよう配慮しつつ、試験を受託して実施しました。

- ・受託品目：飲用乳、アイスクリーム類、調製粉乳、発酵乳、練乳、チーズ、脱脂粉乳、飼料用粉乳、その他食品等
- ・試験項目：理化学
乳脂肪分、無脂乳固形分、たんぱく質、灰分、放射能、金属(Na、Ca)、溶解度、スコーチドパーティクル等
微生物
細菌数、大腸菌群、耐熱性菌数、リステリア、高温菌数等
- ・検体数：3,640 検体
(30年度:2,833検体、29年度:3,649検体、28年度:4,089検体)
うち、放射能検査：390 検体
(30年度:489検体、29年度:585検体、28年度:651検体)

(2) 依頼による調査

①全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼による調査

全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼を受け、全国飲用牛乳公正取引協議会製品等検査規程に基づく市販品成分検査と認定検査機関実務調査を実施しました。市販品の成分検査(乳飲料を除く)については試験結果の判定まで実施し、定期成分検査(受託数は2の(1)の内数:154検体)については合否判定まで実施しました。

・市販品成分検査

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
牛乳	198 件	193 件	226 件	435 件
加工乳	18	27	19	45
乳飲料	152	183	142	307
成分調整牛乳他	42	38	40	77
計	410	441	427	864

・認定検査機関の実務調査:30施設(うち、新規2施設)

(30年度:29施設、29年度:30施設、28年度:32施設)

②乳及び乳製品の試験法に関する検討

国立医薬品食品衛生研究所からの受託研究(平成30年度～令和3年度)

乳及び乳製品の成分規格等に関する省令の試験法は、一部の器具が入手困難になる等実行可能性が低下しているほか、経済連携協定等の締結に際し必要な国際的整合性が確実とは言えない。本研究により収集する乳及び乳製品の分析法に関する情報を踏まえつつ、国際的に整合し、かつ実行可能性を向上させた分析法を開発し、その妥当性を確認するための検討を行う研究に参画しました。

濃縮乳、練乳、粉乳の乳脂肪分析法構築のための分析を実施し、共同試験を実施しました。また、バター、バターオイルの乳脂肪分析法構築のための分析を実施しました。

③生乳と乳製品の安全性・信頼確保支援事業のうち

ファームメイド乳製品等の検査及び工房の環境検査事業

公益財団法人全国競馬・畜産振興会助成(平成30～令和2年度)

酪農家による6次産業化の取組が成功し酪農経営の継続・発展につながるように、HACCPに対応するために必要な微生物等の検査、工房の環境検査、正確な表示のための検査、アドバイス等を行って、乳製品の安全性・信頼の確保に資する事業を実施しました。

学識経験者等による事業推進委員会における具体的な進め方等の検討の後、チーズ、ヨーグルト、アイスクリーム、牛乳の製造に取り組む酪農家を対象に参加案内を行い、30件の酪農家を対象に、成分、微生物等の検査を121個、製造施設の環境検査を30カ所について実施し、結果を各酪農家へ送付しました。検査結果等を事例集として取りまとめ、協会HPに掲載しました。

衛生管理、官能検査等に関する研修会を、12件の酪農家の参加を得て3月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため中止しました。

④規格適合検査技能向上促進対策事業

乳業工場における飲用乳の成分検査の実態調査(農林水産省補助事業(平成26～27年度))の成果の活用法について、引き続き検討しました。

3 研修会の開催・講師派遣

[協会主催の研修会]

生乳や乳製品の検査を行う技術者等を対象とした実技中心の2種類の研修会を計6回開催し、参加者は合計31名(30年度 41名、29年度 35名)でした。研修生のご要望等により的確にお応えできるよう、講義内容、資料、実習用器材等について工夫、改善を加えながら実施しました。

開催実績：

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者
生乳検査技術研修会 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 乳固形分、比重、 体細胞数、抗生物質 講義等：生乳検査精度管理に 関する講義、認証制度 の説明	5月 13日～ 15日	5人
	7月 16日～ 18日	8人
	10月 7日～ 9日	7人
	1月 22日～ 24日	4人
	2月 26日～ 28日	5人
	計 5回 (30年度 5回) (29年度 4回)	計 29人 (30年度 39人) (29年度 32人)
乳糖検査技術研修会 実技：レイン・エイノン法	8月 22日～ 23日	2人
	計 1回 (30年度 2回) (29年度 2回)	計 2人 (30年度 2人) (29年度 3人)

[乳業関係団体の依頼による研修会]

全国飲用牛乳公正取引協議会、一般社団法人日本アイスクリーム協会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会の依頼を受け、検査技術研修会11回(30年度 10回、29年度 10回)、アイスクリーム検査技術研修会2回(30年度 2回、29年度 2回)、微生物検査研修会2回(令和元年度より開催)の合計15回実施し、参加者は合計126名(30年度 125名、29年度 107名)でした。

開催実績：

研修会の主催者、内容等	期間・回数	参加者
全国飲用牛乳公正取引協議会 検査技術研修会	5月20日～24日 合併コース	8人
・Aコース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 乳固形分(全固形分)、 比重、滴定酸度	5月27日～24日 Aコース	8人
	Cコース	5人
講義等：精度管理に関する講義	6月10日～14日 合併コース	8人
・Cコース 実技：細菌数、大腸菌群、 低温細菌数、 耐熱性菌数、体細胞数、 抗生物質	6月24日～28日 合併コース	8人
	7月24日～26日 Aコース	4人
	Cコース	3人
講義等：精度管理に関する講義	8月26日～30日 合併コース	7人
・合併コース 実技：A、Cコースの合併	9月25日～27日 Aコース	5人
	Cコース	7人
	10月16日～18日 単独コース(Aコースのみ)	8人
	10月28日～ 11月1日 合併コース	8人
	11月25日～29日 合併コース	8人
	1月27日～31日 合併コース	8人
	計 11 回 (30年度 10回) (29年度 10回)	計 95 人 (30年度 92人) (29年度 77人)
一般社団法人日本アイスクリーム協会 アイスクリーム検査技術研修会	12月9日～11日 Aコース	3人
・Aコース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 全固形分、単位重量 当たりの容量比	Cコース	6人
	2月12日～14日 Aコース	2人
	Cコース	4人
・Cコース 実技：細菌数、大腸菌群、 黄色ブドウ球菌、 抗生物質	計 2 回 (30年度 2回) (29年度 2回)	計 15 人 (30年度 17人) (29年度 14人)

一般社団法人全国発酵乳 乳酸菌飲料協会	2月 3日 ~ 4日	8人
	2月 17日 ~ 18日	8人
微生物検査研修会 ※ 実技：乳酸菌数、大腸菌群、 一般細菌数 ビフィズス菌数 講義等：発酵乳・乳酸菌飲料に おける微生物学 の基礎と検査方法	計 2 回 (30年度 2回) (29年度 2回) ※平成30年度までは ビフィズス菌検査研修会	計 16 人 (30年度 16人) (29年度 16人)

[講師派遣]

一般社団法人日本乳業協会、一般財団法人蔵王酪農センター等の依頼を受け、のべ29名(30年度 33名、29年度 25名)の講師等を派遣しました。

全国農協乳業協会の依頼を受け、「乳業製造技術通信教育」の「牛乳・乳製品検査法」の講師を担当し、テキストの改訂及び設問レポートの作成、添削、採点を行いました。

派遣実績：

研修会の主催者、内容等	期間	場所
一般社団法人日本乳業協会 官能評価員育成研修会(実習担当)	5月 30日 ~ 31日 9月 13日 12月 12日 ~ 13日 1月 23日 ~ 24日	千代田区
全国発酵乳乳酸菌飲料協会 生産技術・衛生講習会	10月 15日 10月 23日 11月 6日 11月 12日	盛岡市 千代田区 大阪市 福岡市
一般社団法人日本乳業協会 牛乳HACCP専門家講習会	11月 27日 ~ 29日	大阪市
関東生乳販売農業協同組合連合会 CS職員対象官能評価研修会	11月 29日 12月 17日	千代田区
消費者庁 食品安全	11月 30日	
東京都健康安全研究センター 食品安全	7月 26日	新宿区
一般財団法人蔵王酪農センター 国産ナチュラルチーズ製造技術 (専門・基礎)研修会「安全なチーズ を生産していただくために」	7月 24日 9月 24日 11月 18日 2月 18日	宮城県 蔵王町

4 研究・技術・調査情報の提供等

(1) 乳業技術誌の刊行

Vol.68 2018及びVol.69 2019を刊行し、関係行政機関、酪農乳業団体・企業、関係大学他約200施設に配布しました。

編集委員（◎編集委員長）

- | | |
|--------|-------------------------|
| ◎ 松田 幹 | 名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授 |
| 齋藤 忠夫 | 東北大学 名誉教授 |
| 芹澤 篤 | 雪印メグミルク ミルクサイエンス研究所長 |
| 武田 安弘 | 森永乳業株式会社 栄養科学研究所 所長 |
| 豊田 活 | 株式会社明治 生産本部 技術部 参与 |
| 藤川 浩 | 東京農工大学 大学院 教授 |
| 星野 昌彦 | 協同乳業株式会社 研究所 前技術開発グループ長 |
| 栗本 まさ子 | 公益財団法人日本乳業技術協会 代表理事 |

乳業技術「Vol.68 2018」

総説・解説

- ① 乳と抗酸化
(藤井智幸、金野直樹、舟橋治幸)
- ② ビフィズス菌利用食品における菌数測定方法の現状と課題
(武藤正達、宮内浩文、越智浩、阿部文明)
- ③ プレバイオティクスとしてのガラクトオリゴ糖
～担子菌酵母を活用した製造プロセスとビフィズス菌による代謝～
(石川英司、秋山拓哉)
- ④ クロマトグラフィー質量分析法を用いた乳製品中の成分分析
(中島章裕)

読者からの話題提供

- 人乳ラクトフェリン由来のオキシトシン様ペプチド (吉川正明)

乳技協だより

- ① ファーム乳製品製造・販売の取り組みの支援について
ファーム乳製品安全性・品質確保支援事業実施結果の概要 (佐々木進)
- ② 検査技術研修会での質問から (伊藤ゆかり)

編集後記 松田編集委員長

乳業技術「Vol.69 2019」

総説・解説

- ① 乳牛の飼養管理と生乳の品質、風味について
(三谷朋弘)
- ② 乳における黄色ブドウ球菌エンテロトキシンの産生性とその検出
(藤川浩)
- ③ 酪農現場におけるスマート技術の現状
(青木康浩)

④ 乳の膜小胞／エクソソーム

(和泉裕久)

⑤ フードマトリクスと栄養成分の生体利用効率

(松田幹)

読者からの話題提供

モンゴルの馬乳酒アイラグにおける微生物間相互作用 (宮本拓)

乳技協だより

① 乳糖試験法の国際的な整合性についての検討 (箸方麻希子、佐川未弥)

② 検査技術研修会での質問から (山口千里)

編集後記 松田編集委員長

(2) 全国集乳路線別生乳成分調査

全国の生乳成分(乳脂肪分、無脂乳固形分)の調査を昭和50年以降継続して実施しており、乳業各社のご協力を得て「全国集乳路線別生乳成分調査第45報」を取りまとめ、協会HPに公表しました。

平成31年1月～令和元年12月の調査延べ路線数は、工場到着ローリー乳で7,933(平成30年 7,876、平成29年 7,859)、全生乳生産量(1日あたり)に対する調査対象乳量のカバー率は41.6%(平成30年 41.4%、平成29年 40.7%)でした。

協力会社名 (50音順)

岐阜グリコ乳業株式会社
信州ミルクランド株式会社
株式会社 明治
雪印メグミルク株式会社

協同乳業株式会社
北陸酪農業協同組合連合会
森永乳業株式会社
よつ葉乳業株式会社

F, SNFの地域別平均値(%)

地	域	F	SNF	地	域	F	SNF
北	海	3.938	8.797	東	海	3.833	8.760
東	北	3.892	8.731	近	畿	3.866	8.789
関	東	3.873	8.776	中	国	3.916	8.770
北	陸	3.885	8.765	四	国	3.873	8.742
東	山	3.842	8.658	九	州	3.923	8.792
				全国平均		3.927	8.791
				(平成30年		3.914	8.790
				平成29年		3.919	8.805)

(3) 技術関連情報の提供

乳・乳製品の試験検査の手技・手法、品質管理や表示のための試験法、測定値の活用法等に関する乳業者、公的機関の試験検査担当者、6次産業化に取り組む酪農家、流通業者等からの幅広い問い合わせに対応しました。

協会HPに、生乳検査精度管理に関する情報、試験検査に関連する情報を掲載したほか、乳業技術Vol.68 2018の乳技協だよりに「ファーム乳製品製造・品質確保支援事業実施結果の概要」、「検査技術研修会におけるQ&A」を、乳業技術Vol.69 2019の乳技協だよりに「乳糖試験法の国際的な整合性についての検討」、「検査技術研修会におけるQ&A」を掲載しました。

(4) 関係機関、関係団体との連携

関係機関、関係団体の会議、委員会等に参加し、情報の収集や意見交換等を行いました。

団 体 等	会合名、内容等
全国飲用牛乳公正取引協議会	常任委員会、専門部会、専門小委員会
(一社)日本乳業協会	定時総会
(一社)日本乳容器・機器協会	定時総会、理事会
(一社)食品衛生登録検査機関協会	通常総会
チーズ公正取引協議会	総会、常任委員会、技術小委員会
(公社)畜産技術協会	総会、理事会、監事監査
(公社)中央畜産会	定時総会
東京飲用牛乳協会	品質改善委員会、表彰式等
関東生乳販売農業協同組合連合会	生乳品質改善共励会(代表理事賞)
(一社)中央酪農会議	ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテスト(後援)
(一財)蔵王酪農センター	畜産振興事業推進委員会
全国農協乳業協会	「乳業製造技術者通信教育」講師検討会議

(5) 研究成果の発表

国立医薬品食品衛生研究所からの受託研究の成果「乳製品の品質(乳脂肪分)を確認するための公的分析法の構築と性能評価」を酪農科学シンポジウムで発表(岩崎 8月)したほか、協会発行の乳業技術Vol.68 2018に「ファーム乳製品製造・販売の取り組みの支援について」(佐々木 5月)を、Vol.69 2019に「乳糖試験法の国際的な整合性についての検討」(箸方、佐川)を掲載しました。

5 生乳検査精度管理

生乳検査精度を高い水準で維持することの重要性に鑑み、引き続き、測定機器校正のための試料乳(乳成分用、体細胞数用)の配布、生乳検査外部精度管理調査(技能試験)及び生乳検査精度管理認証制度の業務を実施しました。

(1) 測定機器校正のための試料乳の配布

乳成分用試料乳配布数 2,774セット

(30年度 2,752セット、29年度 2,753セット、28年度 2,708セット)

体細胞数用試料乳配布数 369セット

(30年度 358セット、29年度 370セット、28年度 365セット)

配布に併せ、キャリブレーション参考資料を協会HPに(12回)掲載しました。

(2) 生乳検査外部精度管理調査

参加施設： 110 施設 (30年度:109施設、29年度:111施設、28年度:107施設)
参加施設名を協会HPに掲載して公表するとともに、「参加証」を引き続き発行しました。

(3) 生乳検査精度管理認証制度

平成30年に一般社団法人Jミルクから認証制度全体を引き継ぎ、生乳と乳製品の安全性・信頼確保支援事業の生乳検査精度管理認証制度事業(全国競馬・畜産振興会助成(平成30～令和2年度))を活用して次のように実施しました。

・ 認証申請施設の書類調査・現地調査を、新規1、更新20施設について実施し、生乳検査精度管理認証特別委員会(9月、2年3月(書面開催))における審議、答申を受けて、10月1日付けで13施設を認証(8施設は次年度の認証)。

生乳検査精度管理委員会を開催(12月)し、認証規程、ガイドラインの内容等についての確認、見直しについて審議。

生乳検査技術者連絡会を開催(2年1月)し、風味関連の2題の講演等の後、意見交換会を実施。

信頼性確保部門責任者研修会(2年3月予定)は、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため開催を中止。

6 国際酪農連盟日本国内委員会

国際酪農連盟日本国内委員会の専門部会(理化学分析専門部会3回、微生物・衛生専門部会2回、添加物・汚染物質専門部会3回、食品規格専門部会1回、コーデックス乳・乳製品部会1回)に参画しました。また、一部の専門部会でIDF質問状への回答の取りまとめを担当しました。

〔収益事業〕

賃借室等賃貸

所有する土地建物の貸借業務を民間事業者に委託して実施し、計画どおりの運用益が得られ、公益目的事業に充当しました。

〔 報告事項 〕

1. 庶務事項

平成 31 年 4 月 10 日	平成30年度HACCP手法支援法指定認定機関高度化計画認定状況等報告書提出(厚生労働省・農林水産省)
平成 31 年 4 月 24 日	平成30年度日本中央競馬会畜産振興事業実績報告書提出(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
平成 31 年 4 月 15 日 ～ 16 日	公認会計士 指導・監査
令和 元年 5 月 10 日	監事監査
令和 元年 5 月 28 日	消費税申告及び納付(麴町税務署)
令和 元年 5 月 29 日	第20回理事会
令和 元年 6 月 7 日	JIDF事務局移転完了
令和 元年 6 月 13 日	第11回評議員会、第21回理事会
令和 元年 6 月 14 日	平成30年度HACCP手法支援法指定認定機関事業報告書及び収支決算書提出(厚生労働省・農林水産省)
令和 元年 6 月 20 日	法人税等確定申告及び納付(麴町税務署他)
令和 元年 6 月 28 日	平成30年度事業報告書等に係る定期書類提出(内閣府公益認定等委員会)
令和 元年 7 月 3 日	社会保険算定基礎届完了
令和 元年 7 月 10 日	労働保険料確定申告書提出(東京労働基準局)
令和 元年 7 月 16 日	第22回理事会
令和 元年 8 月 5 日	第12回評議員会
令和 元年 10 月 10 日	運営組織及び事業活動の状況に関する立入調査(内閣府公益認定等委員会)
令和 元年 11 月 21 日	食品衛生法登録検査機関の定期立入検査(厚生労働省関東信越厚生局)
令和 元年 12 月 17 日	令和2年度日本中央競馬会畜産振興事業(新規事業)応募書提出(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
令和 2 年 1 月 7 日	乳業諸団体新年賀詞交歓会
令和 2 年 1 月 28 日	償却資産申告書提出(千代田都税事務所)
令和 2 年 1 月 30 日	令和2年度日本中央競馬会畜産振興事業実施計画の承認申請書提出(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
令和 2 年 3 月 12 日	令和2年度HACCP手法支援法指定認定機関事業計画書及び収支予算書提出(厚生労働省・農林水産省)
令和 2 年 3 月 18 日	第23回理事会
令和 2 年 3 月 23 日 ～ 24 日	ISO認定試験所の更新現地審査(公益財団法人日本適合性認定協会)
令和 2 年 3 月 27 日	令和2年度事業計画書等に係る定期書類提出(内閣府公益認定等委員会)
令和 2 年 3 月 31 日	事業年度終了

2. 会 議

第20回 理事会(令和元年5月29日)

- 1) 平成30年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 評議員会の日時、場所及び付議すべき事項の決定について
- 3) 事業の執行状況報告

第11回 評議員会(令和元年6月13日)

- 1) 平成30年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 評議員、理事及び監事の選任について
- 3) 令和元年度事業計画及び収支予算書等の報告

第21回 理事会(令和元年6月13日)

- 1) 役付き理事の互選について

第22回 理事会(令和元年7月16日)

- 1) 評議員会の日時、場所及び付議すべき事項の決定について

第12回 評議員会(令和元年8月5日)

- 1) 評議員及び理事の選任について

第23回 理事会(令和2年3月18日)

- 1) 令和2年度事業計画及び収支予算書等の承認について
- 2) 規定を変更する件
- 3) 特定費用準備資金取得の件
- 4) 事業の執行状況報告

3. 役 員

令和元年6月13日

下記の役員任期満了に関し、第11回評議員会で選任。

再任 理事 阿久澤 良造、安部 俊朗、海野 研一、
栗本 まさ子、小久保 彌太郎、城端 克行、
増田 哲也、松田 幹

下記の役員辞任に関し、第11回評議員会で理事1名、監事1名を選任。

辞任 理事 守部 公博
就任 理事 松尾 昌一
辞任 監事 廉林 秀規
就任 監事 佐藤 靖

令和元年8月5日

下記の役員辞任に関し、第12回評議員会で理事1名を選任。

辞任 理事 青山 和夫
就任 理事 草野 茂実

令和2年3月31日現在

代表理事 栗本 まさ子
理事 阿久澤 良造、安部 俊朗、海野 研一、草野 茂実、
小久保 彌太郎、城端 克行、平松 優、増田 哲也、
松尾 昌一、松田 幹
監事 佐藤 靖、保井 久子

4. 評 議 員

令和元年6月13日

下記の評議員の任期満了に関し、第11回評議員会で選任。

再任 評議員 西尾 啓治

下記の評議員辞任に関し、第11回評議員会で評議員1名を選任。

辞任 評議員 大塚 誠司

就任 評議員 小菅 英夫

令和元年8月5日

下記の評議員辞任に関し、第12回評議員会で評議員2名を選任。

辞任 評議員 尾崎 玲、川村 和夫

就任 評議員 後藤 正純、松田 克也

令和2年3月31日現在

五十君 静信、浦島 匡、岡田 臣弘、小菅 英夫、後藤 正純、
齋藤 忠夫、酒井 健夫、迫田 潔、島崎 敬一、清水 誠、
鈴木 チセ、西尾 啓治、畑江 敬子、前田 浩史、松田 克也、
三浦 晃一、南 俊作、宮原 道夫

5. 職員等の異動

期首人員	21 名
採用者	2 名
退職者	0 名
期末人員	23 名

令和元年度事業報告 附属明細書

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年5月

公益財団法人日本乳業技術協会